

參考資料



■合意形成の実施状況

(1) 合意形成の経過

年月日	事 項	協議内容等
H19. 7.26 ～ 8.10	市民アンケート意向調査	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡の特長、イメージ ・土地利用、都市施設の満足度 ・市民参加についての考え など
8.21	第1回 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的事項の確認 ・都市の現状把握
9.20	第1回 市民部会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的事項の確認 ・都市の現状把握
9.27	第1回 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的事項の確認 ・都市の現状、問題議論
10.20	第2回 市民部会	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の現状把握（まちあるき）
10.26	第2回 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果確認 ・まちづくりの課題議論
11. 1	第3回 市民部会	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果確認 ・まちづくりの目標議論
11. 7	第3回 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの目標議論
11.13	第2回 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果の確認 ・まちづくりの課題議論 ・まちづくりの目標議論
12.20	第1回地域ワークショップ ^o （4地域合同）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状認識 ・地域づくりの目標議論
H20. 1.22	第4回 市民部会	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向けた取り組み議論
1.30	第4回 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・分野別構想の基本的事項議論
2.15	第3回 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの目標決定 ・まちづくりの課題決定 ・分野別構想の基本的事項議論
4.24	第5回 市民部会・作業部会 合同	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向けた取り組み議論
5.29	第4回 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・分野別構想の基本的事項決定 ・分野別構想議論
7. 2	第2回 地域ワークショップ ^o （4地域合同）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別の施策、取り組み議論 ・市民の役割分担議論
7.22	第6回 市民部会・作業部会 合同	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の実現に向けた取り組み議論
9. 2	第5回 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・分野別構想決定 ・地域別構想議論 ・実現化方策議論
10.17	第7回 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案全体の議論
11.13	第6回 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別構想決定 ・実現化方策決定 ・計画案全体の確認
H20.12.15 ～H21.1.15	パブリックコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・計画素案

(2) 佐渡市都市計画マスタープラン策定委員会

【目的】

学識経験者、関係団体、庁内関係課代表者等により構成し、計画案内容の審議・調整を行いました。

策定委員会委員名簿

NO	区分	所属等	氏名	
			平成19年度	平成20年度
1	学識経験者	長岡技術科学大学教授	中出 文平	
2		(財)新潟経済社会リサーチセンター企画部長	渡辺 和憲	
3		デザイン空代表	塚本 久志	
4	関係団体	佐渡商工会女性部協議会理事	小田 チヨ	
5		(社)佐渡観光協会理事長	木村栄太郎	
6		(株)新潟交通佐渡総務課長	中川 隆治	
7		社会福祉協議会会長(副会長)	加藤 幹夫	渡辺 幸徳
8		佐渡市連合婦人会会長	山田 智子	
9	関係行政団体	NPO法人しまみらい振興機構事務局長	井上 由香	
10		NPO法人佐渡の福祉ゆい代表	橋本 昌子	
11	関係行政団体	佐渡地域振興局農林水産振興部副部長	甲斐 幸子	池 善世
12		佐渡地域振興局地域整備部副部長	佐藤 敦	
13	佐渡市	副市長	大竹 幸一	甲斐 元也
14		企画振興課長	金子 優	中川 義彦
15		環境課長(トキ共生・環境課長)	中川 義彦	木下 良則
16		社会福祉課長	樋口 賢二	
17		農業振興課長	金子 晴夫	
18		商工課長	木下 良則	佐々木武敏
19		建設課長	渡辺 正人	
20		教育委員会教育次長	藤井 武雄	

(3) 佐渡市都市計画マスタープラン作業部会

【目的】

関係各課係長クラスのメンバーにより構成し、計画案の内容調整を行いました。

作業部会員名簿

NO	課	係	氏 名	
			平成 19 年度	平成 20 年度
1	防災管財課	防災安全係	渡辺 一哉	
2	企画振興課	企画統計係	中川 宏	大橋 幸喜
3	環境課	環境対策係	原田 健一	
4	廃棄物対策課	施設管理係	榊屋 道治	
5	農業振興課	農業企画係	熊谷 英敏	
6	観光課	観光振興係	計良 健司	計良 朋尚
7	商工課	商工振興係	中濱 正吾	石塚 義秀
8		企業振興係	佐々木雅文	
9	建設課	建設係	山本 信	坂田 和三
10		建築住宅係	猪股 雄司	
11	水道課	庶務係	池野 良夫	鶴間 克己
12	下水道課	維持管理係	曾我 至	
13	学校教育課	施設係	金田 英夫	
14	生涯学習課	スポーツ振興係	計良 伸二	
15	世界遺産・文化振興課	世界遺産推進係	金子 雅晃	下谷 徹

(4) 佐渡市都市計画マスタープラン市民部会

【目 的】

一般市民 12 名により構成し、市民意見の集約と計画案（地域別構想は除く）への反映を行いました。

市民部会員名簿

NO	居住地	氏 名	NO	居住地	氏 名
1	金 井	伊藤慎太郎	7	両 津	伊藤 憲三
2	両 津	俵 建	8	金 井	石塚 直樹
3	畑 野	根岸 締	9	相 川	廣瀬 大海
4	両 津	野口 忍	10	赤 泊	斉藤 皓哉
5	相 川	山本 利雄	11	新 穂	小浜 安夫
6	両 津	今井 保	12	佐和田	後藤 和子

(6) 住民アンケート意向調査

【目的】

佐渡市都市計画マスタープランに市民の意見を反映させるために実施しました。

【調査の概要】

- 調査対象 20歳以上の佐渡市内在住者 2,000人
- 調査方法 無作為抽出
- 配布と回収 郵送による配布及び回収
- 調査時期 平成19年7月～8月

全体回収率

配布数	回収数	回収率
2,000	815	40.8%

※ その内1通は無効（白紙）

年齢別回収率

	配布数	回収数	回収率
20歳代	310	89	28.7%
30歳代	380	119	31.3%
40歳代	430	158	36.7%
50歳代	450	214	47.6%
60歳代以上	430	230	53.5%
年齢不明	—	10	—
計	2,000	815	40.8%

地区別回収率

	配布数	回収数	回収率
両津	300	129	43.0%
相川	270	92	34.1%
佐和田	270	115	42.6%
金井	260	116	44.6%
新穂	140	58	41.4%
畑野	230	89	38.7%
真野	230	84	36.5%
小木	100	36	36.0%
羽茂	100	43	43.0%
赤泊	100	44	44.0%
居住地不明	—	9	—
計	2,000	815	40.8%

(7) パブリックコメント

平成20年12月15日から平成21年1月15日にかけてパブリックコメントを行い、計画素案を市民に提示して内容についての意見を頂きました。

この結果、25件の意見が寄せられ、これを踏まえ計画への意見反映を行いました。

■ 用語集

【IUJターン】

Iターン：生まれ育った故郷以外の地域に就職すること。

Uターン：地方で生まれ育った人が他地域で一度勤務した後に、再び自分の生まれ育った故郷に戻って働くこと。

Jターン：地方で生まれ育った人が一度他地域で働き、その後また故郷とは違う別の地方に移住して働くこと。

【アクセス】

交通手段。ここでは「交通の利便性」をいう。

【アダプト制度】

「Adopt」とは、英語で「養子縁組をする」といった意味。

行政が、特定の公共財（道路、公園、河川など）について、市民や民間業者と定期的に美化活動を行うよう契約する制度のこと。美化活動を行う主体は、地域住民などのボランティアが多く、行政はそれらの活動に対し一定の支援を行うという形式が多い。

【NPO法人】

「NonProfit Organization」（非営利組織）。政府や私企業とは独立した存在として、市民・民間の支援のもとで社会的な公益活動を行う組織・団体。

【オープンスペース】

主に建物が建っていない緑地や空き地のこと。遊び場、遊歩道など憩いのスペースとして活用されている。

【ガーデニング】

園芸。庭いじり。

【乖離】

そむきはなれること。結びつきがはなれること。

【環境保全型産業】

化学肥料や農薬の使用を控えた農業など、環境に配慮し、持続性の高い地域を継続するための産業。

【涵養機能】

水が自然に染み込むさま。それを促すはたらき。

【高齢者仕様住宅】

高齢者が安全、快適に生活できるようバリアフリー設計になっており、日常生活支援のための各種のサービスが付帯している住宅。多くの場合、集合住宅で、単身や夫婦の高齢者のみの世帯が集まって生活する住宅。

【コーホート変化率法】

ここでは性別、年齢別人口の趨勢をもとに、人口増減を決定する要因である出生、死亡、転出転入をそれぞれ別々に推計し、その結果を合成して将来人口を推計する方法をいう。

【コミュニティ】

人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域及びその人々の集団。地域社会。共同体。

【コミュニティバス・コミュニティワゴン】

主に交通空白地域の住民の足を確保するため、自治体が運営主体となり、バス会社等に運行を委託するなどしてバスを運行するバス。小型のワゴンを運行する場合は「コミュニティワゴン」となる。「巡回バス」「循環バス」という名称で運行をしている自治体もある。

【コミュニティビジネス】

市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決し、またコミュニティの再生を通じて、その活動の利益を地域に還元するという事業の総称。

【コントロール】

ちょうどよいぐあいに調節・統制すること。管理。

【コンパクト】

一般には「小さくまとめる」という意味。ここでいう「コンパクトなまち」は「今あるものを有効に使い、今のまちの範囲内で中身を充実させる」ことを意味し、この考え方は今後のまちづくりの大きな方向性を示す。

【資源循環型社会】

ごみの発生を抑制し有用なごみは循環資源としてリサイクルするなど、天然資源の消費を極力抑制し、環境への負荷をできる限り低減した社会。

【自助・共助・公助】

自助：自らの身は自分で守ること。

共助：自分たちの身の回りや住んでいる地域は自分たちで守ること。

公助：地方公共団体（消防、警察含む）、消防団、自衛隊などによる救助支援。

【時代趨勢】

これから先の成り行きを示すものとしての現在の状態やこれまでの状況。

【将来フレーム】

将来の人口や世帯数など、計画的なまちづくりをすすめるための基本的な指標。

【職住近接】

働く場所と住む場所が同じ、または近くにあること。

【スケジュール】

予定。日程。また、予定表。日程表。

【スプロール】

都市の急激な発展で市街地が無計画・無秩序に郊外に広がっていくこと。

【スローライフ】

大量生産・効率化といった経済的観点のみからの視点ではなく、自然と調和してゆったり生きるライフスタイルに価値や重要性を見出す生き方。

【地産地消】

地元で生産されたものを地元で消費するということ。

近年、消費者の農産物に対する安全・安心志向の高まりや生産者の販売の多様化の取り組みが進む中で、消費者と生産者を結び付ける「地産地消」への期待が高まっている。

【デマンドバス・デマンドタクシー】

乗客の需要に応じて、自宅や指定場所から目的地まで利用者の相乗りにより運行する形態のバスまたはタクシー。

【透水性・排水性舗装】

透水性舗装・排水性舗装ともに、悪天候時の車両走行の安全性確保、交通騒音の低減、沿道への水はね抑制といった効果がある。

・透水性舗装：雨水を積極的に地中に浸透させることを目的とした舗装。

・排水性舗装：雨水等の排水を目的にした舗装。

【トレッキング】

山歩き。一般的に、山頂にはこだわらず山の中を歩くことを目的としている。

【二地域居住】

都会に暮らす人が、週末や一年のうちの一定期間を農山漁村で暮らすこと。

【日本風景街道（佐渡國しま海道）】

郷土愛を育み、日本列島の魅力・美しさを発見、創出するとともに、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創成する運動を促し、地域活性化、観光振興に寄与し、国土文化の再興の一助となることを目的とする。「シーニック・パイウェイ・ジャパン」。

平成 20 年現在全国で 96 ルートが登録されており、佐渡市にも「佐渡國しま海道」が登録されている。佐渡の道・景観に関する情報の収集と発信、調査研究、実験的事業、具体的な改善事業などを通し、会員相互の交流と地域活性化を目指す。

【ネットワーク】

網の目のように作った組織、系列、つながりのこと。

【ノンステップバス】

出入口の段差をなくし乗降を容易にしたバス。床面高さは概ね 35cm 以下のもの。中ドアや前ドアに車いす用スロープを設け、車いすでの乗車を容易にすることもある。

【パークアンドライド】

郊外にあるバスの停留場の近くまで自家用車や自転車・原付きバイクで行き、そこに併設された駐車場に駐車して（Park）、そして（And）、バスなどの公共交通機関に乗る（Ride）という意味。

【バイオマスタウン構想】

バイオ：「Bio（生物、生命）」。マス：「Mass（かたまり、集合体）」。バイオマス「Bio Mass」は、生物量（一定範囲内の生物の現存量）であり、エネルギーとして使用される動植物のことを総称する。

バイオマスタウン構想とは地域のバイオマスの総合的かつ効率的な利活用を図るため、市町村等が作成する構想のことである。

【ハイブリッドバス】

車の減速時のエネルギーをバッテリーに充電し、その電力で駆動させるモーターを、発進加速時にエンジンの動力補助とするシステムのバス。燃費の向上、窒素化合物の排出を低減した環境にやさしいバス。

【白砂青松】

白い砂と青々とした松により形成される、日本の美しい海岸の風景のたとえ。

【ハザードマップ】

自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図。

【バスベイ】

バス停付近にあるバスの停車のための道路のふくらみのこと。

【バリアフリー】

「バリア（障壁）」を「フリー（のぞく）」。障壁となるものを取り除き、生活しやすくすることを意味する。主に建物内の段差など、物理的な障壁の除去をいう。

【PR】

広告。宣伝。

【光ファイバー】

ガラスやプラスチックの細い繊維できている、光を通す通信ケーブル。非常に高い純度のガラスやプラスチックが使われており、光をスムーズに通せる構造になっている。離れた場所に光を伝える伝送路。

この構造を利用して家庭でのインターネット等の通信速度の高速化や、地域でネットワークを形成し情報伝達の高度化を図ることができる。

【ブランド】

会社・商品・サービスなどについて、他と明確に差別化できる個性（イメージ・信頼感・高級感など）。経営・販売上の戦略として構築・管理される。

【ポケットパーク】

「Pocket Park」。道路わきや街区内の空き地などわずかな土地を利用した小さな公園または休憩所。地域の生活環境を改善し、気軽に休める憩いの場として活用される。

【保水】

水をたくわえておくこと。

【ホスピタリティ】

訪問者を丁重にもてなすこと。おもてなしの心。

【ボトルネック】

「Bottle Neck」(瓶の首)。ここでは交通の妨げとなっている道路の箇所をいう。具体的には、赤信号時間が相対的に長い交差点や幅員減少・車線減少により渋滞を起こす箇所のことをいう。

【マスタープラン】

ここでは(本書は)市町村が策定する「都市計画マスタープラン」という。

都市計画法第18条の2により位置づけられる「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、平成4年の都市計画法改正により規定された。

「都市づくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、個別具体の都市計画の指針として地区別の将来のあるべき姿をより具体的に明示し、地域における都市づくりの課題とこれに対応した整備等の方針を明らかにする市町村のマスタープラン」とされる。作成に当たっては、「必ず住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるもの」とされている。

【マリンリゾート】

マリン：「Marine(海の、海上の)」。リゾート：「Resort(避暑、避寒、保養のための土地)」。マリンリゾートは、スキューバダイビングやヨットなど海辺での余暇を楽しむ場所をいう。

【ライフスタイル】

生活の様式・営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方をいう。

【緑被率】

ある地域又は地区における緑地(被)面積の占める割合。平面的な緑の量を把握するための指標。

佐渡市都市計画マスタープラン 平成 21 年 3 月 策定

【発行】平成 21 年 3 月

【編集】佐渡市 建設課 都市計画係

〒952-1292 新潟県 佐渡市 千種 232 番地

電 話：0259-63-5118（直通）

F A X：0259-63-3765

E-mail：k-kensetsu@city.sado.niigata.jp